

産経新聞 新コーナー

エッセイ投稿欄「金曜日の独り言」 原稿募集

産経新聞の朝刊に、新たなエッセイ投稿欄が設けられる予定です。

この度、その初回に掲載する原稿を心齋橋大学受講生限定で募集致します！

以降は、一般読者からの投稿受付となりますので、この機会に是非ご応募下さい。

産経新聞 朝刊(大阪エリア版)発行部数:48 万部

毎月第1金曜日に掲載予定 ●今回の募集での決定作は、11/5(金)掲載予定

募 集 : エッセイ

テーマ : 自由

字 数 : 600字(400字詰原稿用紙換算1.5枚)(20字×30行分)

【応募様式について】

手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。

ワープロソフトを使用する場合は、A4サイズに縦書き(用紙は横置き)、20字×20行に設定して下さい。

いずれの場合も、1ページ目(1枚目)の10行目までに、

- ◆ 作品タイトル
- ◆ 氏名・性別・年齢
- ◆ 住所

を記入し、1ページ目の11行目からエッセイを書きだし、2ページ目(2枚目)の最終行で終わって下さい。(本部は20字×30行分となります)

応募先 : 心齋橋大学事務局 持参・郵送・メール(info宛)添付、いずれでも可

締切 : 2021年10月20日(水)

※ 審査は、産経新聞社が行います。作品は返却致しません。
掲載決定の方にのみ、心齋橋大学事務局よりご連絡致します。

※下記は、エッセイのサンプルです。投稿者名として、〇〇市 心齋橋花子 のようにお名前が掲載される予定です。大阪府以外にお住まいの方も応募頂けます。

金曜日の 独り言

レジ袋の有料化

コロナ禍で、スーパーやコンビニを利用することが多くなった。

在宅勤務のときなどは妻に代わってコンビニに行くのだが、精算のレジでたまにイラっとすることがある。今までもコンビニには行っていたが、イラっとするようになったのはここ最近だ。

さて、どうしてコンビニのレジで「イラ」っとしてしまうのか。その原因はレジ袋の有料化にある。

レジ袋が有料になり買い出しに行く時はマイバッグを持って行く。スーパーでは商品を以前から自分で袋に入れていたので気にならなかったが、コンビニでも商品を手で入れないといけなくなったのだ。

そう、コンビニのレジでの商品の渡し方が、店員さんによって違うのだ。

ある店員さんは、商品をカゴから出してバーコードにかざすと、自分の前に置く。そうすると、カゴが邪魔をして商品が受けとれない。つまり全ての商品の読み取りが終わるまで私はじっと待つことになる。そこでイラっとする。

バーコードの読み取りが終わった商品を私の方に差し出してくれる店員さんもいるが、何故だか小さい商品から渡してくる。

「弁当や冷凍食品など大きい商品から順に取り出す配慮はないのか」と、またイラっとする。

極め付きは、ビールなどがある場合だ。私としては最初か最後にしてほしいのだが、ちょうど商品を入れている最中にビールを取り出す。

すると“画面をタッチください”と促される。

思わず「今両手ふさがってる」と、またまたイラっとしてしまう。

最後は、家に帰る途中こんな小さい自分にイラっとする。

吹田市 T・Y

